

## 平成22年8月26日鳥取県副知事挨拶要旨

平成25年度の第64回全国植樹祭を鳥取県で開催することを決定いただいたことへ心から感謝。

鳥取は小さな県であるが、森林率が県土の73%と高く、古くから森林と営みを共にしてきた。弥生時代の国内最大級の遺跡である、妻木晩田遺跡でも、木の文化を大切にしてきた当時の人々のことを伺うことが出来る。そのころ始まった日本海対岸諸国との交流は、現在、韓国への航空路や、韓国・ロシアと結ぶ定期貨客船航路も広がって、最も盛んとなっている。

今、木材価格の低迷により、森林の整備に手が行き届かない状況となっているが、地球温暖化防止や、生物多様性等、色々な意味で森林の持つ文化、営みがこれからきっと見直されると思う。全国植樹祭の開催を契機に、その機運を高めていきたい。また、今年10月は生物多様性条例、第10回締約国会議が開催される。来年が国際森林年、そして25年度は京都議定書後の新たなスキームがスタートする年で、そのような中、鳥取県で全国植樹祭を開催できるということも、私たち鳥取県民にとって、大きな誇りになると思う。

植樹祭の前々年、来年の秋には、「全国豊かな海づくり大会」を鳥取県で開催することになっている。森林の持つ機能が海にまで及んでいるということ、山の幸・海の幸を絡めて、全国植樹祭まで盛り上げるため、60万人県民が、力を合わせ、その一人一人が森・川・海を育てる運動の展開を始めたところであり、海づくり大会、そして植樹祭と大きなうねりを鳥取県の中で作っていきたい。